

前置胎盤症例の出血リスクに関する研究

1. 研究の対象

2003年1月1日～2017年12月31日に当院で前置胎盤および低置胎盤の診断で帝王切開術を受けられた方

2. 研究目的・方法

本研究の目的は前置胎盤の患者さんの術後出血に関する検討です。前置胎盤は帝王切開の際の出血量がほかの疾患と比較すると多くなる傾向にあり、癒着胎盤などを合併すると産科危機的出血になりこともあり命を脅かす危険があります。帝王切開の際の出血が多くなる因子としては高齢妊娠、全前置胎盤、胎盤前壁付着、経産婦、子宮頸管長の短縮などがありますが、術後に出血が多量になる因子を検討した報告はありません。また近年、止血法として子宮内にバルーンカテーテルを挿入したり、子宮腔内にガーゼを詰めたりする方法などもあります。止血処置に伴う合併症や医療費増加の問題もあります。そこで今回前置胎盤の方で術後に多量出血となった患者さんを後方視的に多量出血となる因子を検討します。研究期間については平成34年12月31日までとしています。患者さんは全て匿名化されたうえで臨床情報のみが解析されます。本校個人情報管理指導者の指導の下、本研究に中立である防衛医科大学校病院産科婦人科平田純子先生が個人情報取扱者として責任を持って、患者さんの匿名化を行った上で個人情報を厳重に保管し、情報漏洩が生じないように留意します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診療情報：病歴、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座 講師 宮本守員

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

電話：04-2995-1211（内線 2363）

FAX：04-2996-5213

研究責任者：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座 講師 宮本守員